

稲作情報 No.3

麦赤かび病防除・追肥（はねうまもち）・水稻育苗（高温注意）

水田農業レベルアップ委員会 技術普及推進部会 [作成:福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会]

大麦の出穂期は平年並みで、平野部の早いところで4月7日頃、盛期は4月10日頃、奥越地区では4月下旬の見込みです。昨年の秋冬が高温であったため、大麦の一括肥料の溶出は、例年よりも既に多くが溶出しています。

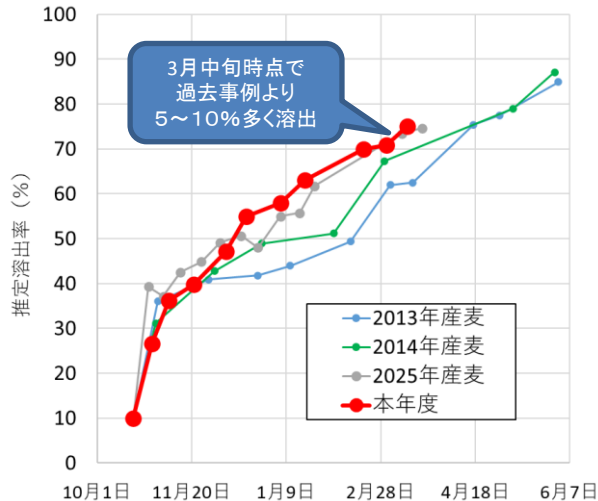
[大麦]

- ・ 赤かび病の発生防止のため、出穂期から5日後頃の開花始期と、その7～10日後の計2回の防除を必ず実施しましょう。
- ・ はねうまもちにおいては、収量向上のため出穂期頃に窒素分で3 kg/10aの実肥を実施しましょう。
- ・ 圃場内にカラスノエンドウの発生が確認された場合は、早めに手取り等を実施しましょう。

[水稻]

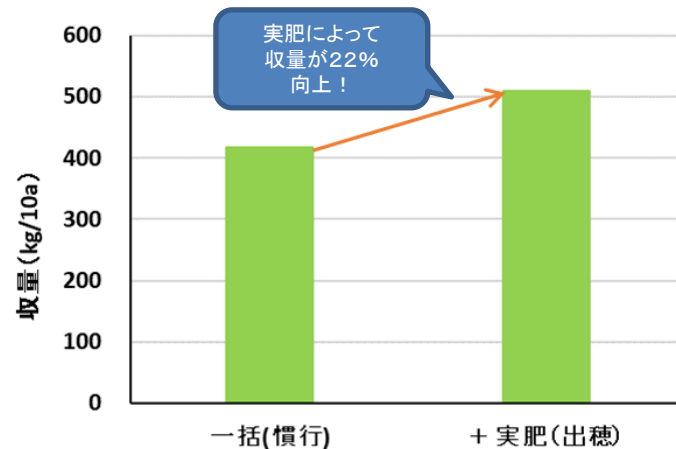
- ・ 気象庁の1か月予報では4月中は例年に比べて高温になる予測です。
- ・ 浸種や催芽、育苗ハウスの温度が30℃を超えると細菌病が多発しやすいので注意しましょう。
- ・ 高温時は育苗ハウスの温度管理や水管理を丁寧に実施し、徒長やヤケ苗、病気の発生を防ぎましょう。

【麦一括肥料の溶出の動向】



農業試験場圃場での溶出推定値の推移
(測定肥料:大麦マスター)

【はねうまもちの実肥効果】



実肥の増収効果(R2~4)
福井県農業試験場試験結果

【麦圃場内のカラスノエンドウに注意！】



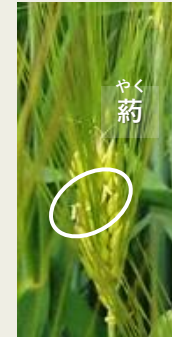
圃場に発生したカラスノエンドウ
(3月末時点の写真)

【大麦の赤かび病防除】

作業	留意事項		
赤かび病防除	防除時期と薬剤の例		
		防除時期	薬剤の例
	1回目	開花始期（出穂期の5日後頃）	トップジンMゾル、トップジンM粉剤DL、ストロビーフロアブル、チルト乳剤、ワークアップ粉剤、シルバキュアフロアブル、ミラビスフロアブルなど * 同一成分の薬剤は連用しない
2回目	1回目の7～10日後		

【赤かび病】

- 赤かび病の被害粒が10,000粒中に5粒以上混入すると出荷できない
- 赤かび病菌は、主に開花期に抽出する「^{やく}葯」から感染する
- 開花期の平均気温が15℃以上で、雨が続くと発生しやすい
- 出穂期から5日後の開花始め（ほぼ穂揃い期）とその10日後の2回防除で効果が高い
- 出穂期とは全茎の40～50%が出穂した時期である



大麦の赤かび病発症個体



気象予報

1か月予報（2026年4月2日発表）の解説 新潟地方気象台

向こう1か月の天候の見通し
北陸地方（4/4～5/3）

予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。
- 期間のはじめを中心に、低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

